

## <メディアウオッチ> 鴨志田リエ元目黒区議が根室市長選に出馬し善戦

2014年9月22日 上出 義樹

鴨志田リエ元目黒区議（55）がなんと、遠く北海道の根室市長選（9月14日投票）に出馬し、3選目の現職市長と一騎打ちして善戦した。私は、郷里の北海道の新聞社で長年記者生活を送り、8年前から目黒区に住んでいる。そんな因縁もあって、鴨志田氏の出馬を中心に今回の根室市長選を後追いしてみたい。

### 8月4日に正式表明

鴨志田氏は2002年に目黒区議に当選し、区議会副議長などを務めた後、民主党を離党。昨年の東京都議選にみどりの風から出馬して落選した。この鞍替え出馬には後援者からも反対の声があり、地元目黒では一部に「お騒がせ議員」とのイメージも持たれているが、寝耳に水の今回の根室市長選出馬のことは、東京ではほとんど報道されず話題になっていない。私自身はたまたま、ネット情報で根室市長選への立候補を知った。「鴨志田」の名前を見たときは一瞬、「まさか目黒の…」と目を疑ったが、やはり本人だった。

北海道新聞は、まだ立候補を表明していなかった7月5日付の釧路・根室版で「鴨志田氏が出馬検討」と、同氏の出馬に関する第一報を掲載した。それによると鴨志田氏は、母校の慶応大学の先輩に当たる根室市の壺田重夫市議から、市長選が3期続けて無風になる可能性があることを伝えられ、「民主主義が生かされていない」として、出馬の検討を始めたという。その後、鴨志田氏は8月4日に正式に立候補を表明。北海道新聞は釧路・根室版を中心に、連載企画や記者座談会、出口調査の結果などさまざまな記事で、鴨志田氏と根室市長選のニュースを詳報した。

### 知名度不足の中で35%の得票率

投票率が57.2%だった選挙の投票結果は現職の長谷川俊輔氏（69）が8,456票、鴨志田氏は4,646票。両候補の得票率は長谷川氏65%に対し鴨志田氏は35%だった。

鴨志田氏と根室市と接点と言えば、大学の先輩の壺田市議のほかは、たまたま根室がサンマの水揚げ量で4年連続日本一になっていることと、落語の「目黒のさんま」がよく知られているという「サンマ」つながりくらいしか見当たらない。

### オール与党の無風状態から12年ぶりの選挙戦

知名度不足、準備不足の選挙戦にもかかわらず35%の得票があり、3選目の長谷川氏の無投票当選を阻んだ鴨志田氏に対し、北海道新聞の紙面には「新人の訴え新鮮」などの好意的な見出しが目に付いた。全くの落下傘候補とはいえ12年ぶりの選挙戦となり、事実上のオール与党状態で沈滞していた市政への関心を高めた功績は大きいというわけだ。

## 批判もあるが沈滞した地方政治に一石

根室と言えば北方領土問題が思い浮かぶが、鴨志田氏は根室市長選では、根室市立病院の産婦人科の分娩ぶんべんが医師不足のため8年前からストップしている問題など、医療や福祉の充実などに重点を置いて訴えた。こうした影響もあってか、北海道新聞の出口調査によると、有権者が市長に望む施策は、医療の充実が30%で北方領土返還の20%を上回るなど、暮らしを重視する傾向が示された。

鴨志田氏の根室市長選出馬に対しては、「唐突過ぎる」、「もっとしっかり作戦と準備をすべきだった」など、違和感や批判の声も聞かれるが、変化を求める市民の声を背景に、「オール与党」になりがちな地方政治のあり方に一石を投じたことは間違いないようだ。

ところで、人口が2万8千人の根室市に対し、目黒区はその10倍近い26万人。北海道新聞などが根室市長選を大々的に報じるのに比べ、既存メディアによる大都会の地域報道の少なさを、今さらながら痛感する。

(かみで・よしき) 北海道新聞社で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院博士後期課程(新聞学専攻)在学中。